2022 年度第 4 回・2023 年第 1 回合同評議員会議事録

日時：2023 年 4 月 1 日（土） 13：30－16：40
場所：東京大学本郷キャンパス理学部化学本館 4F 講義室と Zoom によるハイブリッド会議
出席者※：
足立伸一[a, z], 五十嵐教之[a, b], 井上豪[a, b], 植草秀裕[a, b], 海野昌喜（庶務幹事）[b], 大原高志[b], 岡崎伸生[a, z], 尾関智二[b], 上村みどり[a, b, z], 神山 崇[a, z], 河野正規[a, b, z], 熊坂 崇[b, z], 栗栖源嗣[a, b, z], 小島優子[a, b], 小松一生（監査役）[a, b], 坂田修身[b], 菅原洋子[a, b], 杉本邦久（広報幹事）[b, z], 杉山和正[a, z], 関根あき子[a, b], 藤間祥子[a, b, z], 中川敦史（会長）[a, b], 中塚晃彦（編集幹事）[b, z], 南後恵理子[a, b, z], 西堀英治[a, z], 禾 晃和（会計幹事）[a, b], 橋爪大輔（行事幹事）[a, b], 濵田麻希（男女共同参画幹事）[z], 樋口芳樹[a], 平田邦生[a, b, z], 藤井幸太郎[b], 宮原郁子[a, b], 森吉千佳子[a, b, z], 姚 閔[a, b, z], 山縣ゆり子（監査役）[z], 山田悠介（情報幹事）, 山本雅貴[a, b, z], 和田 啓[a, z]
委任状出席者※：清水敏之[a], 千田俊哉[a, b], 千田美紀[a, b]
欠席者※：無し
議長：中川敦史[a]（会長）
議事録作成者：海野昌喜（庶務幹事）[b]
※2022 年度第 4 回評議員会（定数 30，構成員は[a]で表記）：出席 27，委任状出席 3
2023 年度第 1 回評議員会（定数 30，構成員は[b]で表記）：出席 28，委任状出席 2
Zoom 出席者（[z]で表記）
（五十音順）

上記のとおり定足数に足る評議員の出席があったので 、議長は定刻に開会を宣し、下記のとおり議事に入った。また、議事録署名人として海野評議員が選出された。

議事

音声に問題なく議事進行に支障がないことを確認した。報告、審議に先立ち、新旧評議員と各委員会幹事の紹介が行われた。

報告事項

1　幹事報告

1.1庶務幹事報告（海野務幹事）

2022 年 11 月 11 日から 2023 年 3 月 15 日までの会員の異動状況が報告された。2023 年 3 月 15 日現在，会員数が 1021（個人会員 1002 名、賛助会員 19 社）である。学会共催等依頼について、協賛依頼 4 件、後援依頼 1 件が報告された。

1.2会計幹事報告（禾会計幹事）

監査報告書が提示され、一般社団法人としての 2022 年度決算（2022 年 2 月 1 日～2023 年 1 月 31 日）が報告された。単年度収支で、736,856 円の黒字（国際会議口振替分を差し引くと 263,144 円の赤字）となったことが報告された。また、年会の黒字が 1,070,610 円で

あったこと、Web 選挙システムの導入で 606,672 円の出費があったことが報告された。第3 回評議員会で承認された 2023 年度予算についての説明があった。特別会計の国際会議口については、国際会議の招致のための積み立て金（2022 年度～2024 年度）の出費があることが報告された。リガクファンド口に関しては、AsCA2022 への参加助成や対称性講座の支出、年会でのポスター懸賞費に使用した旨が報告された。また、今年度は IUCr の参加援助への出費が予定されていることが説明された。さらに、インボイス制度導入に伴い、結晶学会は免税事業者のままで活動することが確認され、今後の検討課題も挙げられた。

1.3編集幹事報告（中塚編集幹事）

会誌の発行状況と特集について報告されるとともに、次号の準備状況と特集について報告された。

1.4行事幹事報告（橋爪行事幹事）

対称性・群論トレーニングコースの開催計画について報告された。

2023 年度の日本結晶学会年会（2023 年 10 月 27-29 日、山口大学、常盤キャンパス）の開催計画について報告された。総会・受賞講演については、初日（10 月 27 日）に宇部市文化会館・文化大ホールで行われる予定であること、懇親会は、総会の後、対面で行われる予定であることが発表された。年会の前日（10 月 26 日）にサテライトワークショップを企画していることと、今年度はシンポジウムが公募になり、5 件の応募があったことが報告された。また、年会の Twitter が開設され運用されていることが述べられた。さらに、2024 年度の日本結晶学会年会（2024 年 11 月 8-10 日、名古屋大学東山キャンパス）開催計画が報告された。

昨年度から行われているオンライン講演会「CrSJ Keynotes」の企画についての報告と、新企画として、若手のための「CrSJ Rising Stars」の企画について説明があった。

1.5情報幹事報告（山田情報幹事）

日本結晶学会ホームページの更新・閲覧状況について報告された。評議員会の議事録の更新が滞っていたことが説明された。

1.6広報幹事報告（杉本広報幹事）

メールマガジン「日本結晶学会からのお知らせ」、会員からのお知らせ「日本結晶学会ニュース」の配信、および IUCr Newsletter への投稿実績について報告された。また、メール配信について 917 件中 98 件の配信エラーが生じている（2023 年 3 月 15 日現在）問題が報告され、アドレス変更に際しては必ず情報を更新するように注意喚起があった。

1.7男女共同参画推進幹事報告（濱田男女共同参画推進幹事）

男女共同参画学協会連絡会から『科学系専門職における旧姓・通称使用に関する実態調査』と『人文社会科学系協会・大学におけるジェンダー平等の現状と課題』のお知らせを広報幹事・事務局に依頼した旨、報告があった。また、年会企画の後に『結晶学者の卵の見つけ方② 普及活動の実践例』のアンケートの集計を行ったことが報告された。学会としてできるアウトリーチ活動のアイデアや意見について紹介された。

2　AsCA 関連　（小松 AsCA 評議員）

今後の会議予定（IUCr2023（メルボルン）, AsC2024（マレーシア）, AsCA2025（台北））

が示された。

3　日本学術会議関係（菅原結晶学分科会委員長・IUCr 分科会幹事）

3-1.　IUCr 分科会関連事項として、13th Ewald Prize に W. A. Hendrickson が選出されたことが報告された。また、IUCr のポスター発表の発表登録が 5 月の末まで延長されている旨、報告があった。さらに、日本学術会議の代表派遣は令和 5 年度は 1 名となったことが報告された。

3-2.　結晶学分科会関連事項として、IYBSSD2022/2023（持続可能な発展のための国際基礎科学年）についての報告があり、公開シンポジウム「基礎科学が導く SDGs 達成への道～結晶＆生命＆技術革新」の WEB 開催とそのプログラムが説明された。また、中学高校へも広報することが説明された。

3-3. 学術会議全体にかかわる問題として、内閣府「日本学術会議の在り方についての方針」が公表され、その方針を基に、「選考過程に関与する第三者委員会の設置」を含めた法改正を準備されていることが説明された。これに対して日本学術会議では「再考を求める」声明を発表した旨、報告があった。

4　その他

4-1. 海野庶務幹事から学会賞選考委員会規程の改定について第 3 回評議員会後のメール審議で確定した旨、報告があった。

4-2. 今年度ジャーナルコンサルティングを受けるかどうかをメール審議することが説明された。評議員からジャーナルコンサルティングの内容に関する質問があった。

4-3. 禾会計幹事より、IUCr2023 参加助成について追加で 5 名程度募集している旨、報告された。

審議事項

1.　会員異動

2022 年度第 3 回評議員会以降の新規入会者の紹介、入会申込書類の閲覧があり、全員の入会が満場一致で承認された。 1 名の郵便番号が書かれていなかったため、すぐに連絡して確認することとした。また、Zoom を使った会議の場合、個人情報をどのように共有するかは今後慎重になるべきであるという意見が出た。今後の検討事項とする。

2.　共催・協賛・後援

共催等依頼について別紙記載の協賛 4 件及び後援 1 件（計 5 件）が満場一致で承認された。

3.　2022 年度決算

2022 年度決算が満場一致で承認された。

4.　AsCA 関連

小松 AsCA 評議員から、会議タイトルに“Joint meeting of”を付けず、「AsCA2025 = 日本結晶学会年会」として扱うことの可否の審議の提案があった。日本結晶学会賞受賞講演や総会は AsCA2025 の中で開催することは可能であることが確認された。一方で、修士の学生が発表しにくくなるのではないか、日本結晶学会への入会数が一時的に減少するのではないか、という懸念が出た。日本結晶学会の会員になる必要はないが、それらの懸念に対しては、学生や会員に対するアドバンテージを与える等の工夫で払しょくできるという意見が出た。

まず、AsCA2025 と別に日本結晶学会年会を開催することはしない、ということが満場一致で承認された。そのうえで、会議のタイトルは AsCA2025 のみ（joint meeting of・・・は付

けない）とすることが満場一致で承認された。

5.　日本学術会議関連

5-1.　5 月 27 日（土）開催予定の WEB シンポジウムに対して日本結晶学会が共催となることが審議され、満場一致で承認された。最大で 5 万円程度の出費があることが申し添えられた。

5-2.　中川会長、菅原評議員（学術会議結晶学分科会委員長）から経緯の説明があり、学術会議問題に関わり、日本結晶学会として『「日本学術会議法の性急な改正について再考を求める」に同意します』という意思表明をするかどうかを審議した。様々な意見があり、「日本結晶学会は内閣府と日本学術会議の間での建設的な対話により問題が解決されることを強く希望します。」という声明（全文は HP に掲載予定）を出すことが満場一致で承認された。

6.　対称性・群論トレーニングコースの日本結晶学会の負担経費について

橋爪行事幹事、五十嵐評議員から説明があり、第 2 回アドバンストコースの経費（最大で 11 万円程度の見積もり。予算の範囲内に入っている額。）を日本結晶学会で負担するかどうか審議した。満場一致で承認された。

7.　その他

7-1. 海野庶務幹事から、年会の引き継ぎ時とその後の幹事会で出た話題について紹介された。年会時に行われる各種委員会に学会予算で弁当を支給することの提案があったが、学会全体の予算配分の見直し案を幹事会で検討した後に、評議員会で審議することになった。また、年会での重複発表について許可するか一人一発表とするかを学会として決めることとし、重複発表は可能であるということが承認された。さらに、年会 HP へは、2022 年度関学年会の HP の記載に倣って「口頭発表はプログラム委員によって選出されますので、必ずしもご希望に沿えないことがあることをご承知おきください。」とだけ記載しておく（重複発表が可能であることは明示しない）ことになった。

7-2. 評議員や会長の選挙が WEB 投票になり、投票率が上がったのか下がったのか質問があった。事務局に確認して評議員に報告することとなった。メール不達の人が投票できないので、注意が必要であることが提言された。アドレスの更新をどのようにしてもらうかは今後の課題となった。

8.　次回評議員会日程

次回（2023 年度第 2 回）評議員会の日程と会場について、7 月の土曜日を中心に、近いうちに日程調整することとなった。形式は、対面（会場は東京近辺を予定）と Zoom のオンライン会議のハイブリッド形式であることが告げられた。

以上